



# 日本列島を叫ぶ反動中曾根 不沈空母化 ついに改憲へ突撃開始

# 日刊 勤労千葉

83. 2. 2  
No. 1256

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）一九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 3月「三里塚―国鉄」決戦の爆発、 4月「中江選挙」の勝利で、反動中曾根を追い倒す

年末より休会となっていた第九十八通常国会は、一月二十四日、再開された。「懲役5年」の求刑を受けたロッキード汚職犯人・田中角栄に対する糾弾の高まりと反動中曾根政権による急ピッチの軍事大国化・改憲攻撃の強行の中で通常国会が進行している。そして、中曾根が軍事大国化の要として今年こそ結着をつけたいとする三里塚二期着工攻撃と人民の抵抗の咎に三里塚闘争の解体、そして臨調・行革攻撃の最大の柱としての国鉄「再建」―国鉄労働運動解体攻撃（そのための「国鉄再建監理委員会設置法案」の三月強行策動）が、いよいよ全面化しようとしている。われわれは、今日、音を立てて急進展しているこの戦争と反動への流れを真正面から見すえ、「国鉄―三里塚」を基軸とした、労働者・人民の巨大な怒りの反撃をつくり出し、反動中曾根体制を打ち倒す闘いをまき起こしていかなければならぬ。

「国鉄再建法」粉碎と完全に時期を同じくした「三里塚二期着工」攻撃を迎えうち粉碎する、三月二十七日の全国総決起集会の大爆発の意味は、この上なく大きくなっている。

### 「不沈空母化」「4海狭封鎖」から 一挙に改憲へ突進する中曾根

首相就任以来、約二カ月、この間、反動中曾根は、その本質をむきだしにした反動攻撃を矢つぎ早やにかけてきている。

一月、急拠おこなった訪韓では、韓国への40億ドルという巨額の援助で全斗煥軍事情権へのテコ入れととり込みをおこない、訪米への「手みやげ」とした。

さらに、訪米では、あけすけの本音をぶち上げ、「日・米は運命共同体」「日本列島を対ソの不沈空母に」「4海峡（宗谷・津軽・対馬・朝鮮海峡）の防衛と支配権の確立」「改憲プランを持つているが、国会では言わない」などの、断じて許せない反動的発言と合意をおこなうなど、軍事大国化・アジア侵略・改憲への策動をより一層露骨に打ち出してきたのである。

そして、この反動的な訪韓・訪米の後、去る二月二十四日、再開された通常国会の冒頭の「施政方針演説」において、中曾根は、「日本は戦後史の大きな転換点に立っている」「従来の基本的な制度や仕組みについてタブーを設けることなく、新しい目で見直すべきだ」と強調したのである。

さらに、以降3日間にわたる代表質問への答弁の中で、より一層露骨な反動的攻撃に具体的に踏み込んできている。

すなわち、①憲法の見直し、②武力に裏うちされた強力外交の徹底、③「個人」を一応尊重しながらも、「国家」に比重を置き直す必要性、

…などを、繰り返し強調しているのである。とりわけ、憲法改悪問題については、「憲法を研究・議論し、見直すことは大い結構。改憲の長期目標（プログラム）のもとに国民的合意をくわつていく」と公言している。

### 3月「三里塚―国鉄」決戦、中江選挙勝利の力で、反動中曾根打倒を

世界危機が戦争に向かって深まっていくなかで、日本帝国主義は、軍事大国化・憲法改悪、再び侵略帝国主義としてアジアに、世界に登場することを明らかにしたのである。反動中曾根は、あいにく訪韓・訪米をおして内外に表明した日本帝国主義のその反動的な決意を、通常国会の中で徹頭徹尾居直り、日本労働者・人民にあらためて再確認させ、屈従することを迫ってきているのである。自民党の改憲策動は、急ピッチで具体的に進展しはじめた。一月の自民党大会では、ついにはじめて憲法改悪を党議決定し、国民に訴える方針を採択した。今や、労働者・人民の不屈の咎・共闘の軸に三里塚と国鉄労働運動のもつ正義の底知れぬ爆発力・波及力を支配者共は最も恐れているのだ。三月に向かつて、国鉄と三里塚をめぐっての中曾根と人民との激突はますます不可避となっている。反合・春闘、反戦・反核・護憲、中江選挙勝利のあらゆる力を一点「三里塚―国鉄」決戦の一大爆発へとときゅう合し、反動中曾根内閣を打倒しよう。3・27三里塚へ一千五百の国鉄労働者隊列を登場させよう。